



人権平和資料館だより

2018年(平成30年)1月

HUMAN RIGHTS & PEACE 第252号

〒720-0061 福山市丸之内1-1-1

TEL 924-6789 FAX 924-6850

人権と平和は

21世紀のキーワード

jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

企画展「橋のない川」の世界

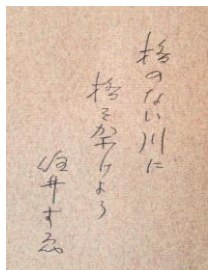
—差別に抗して立ち上がった人々—

■期間 2018年1月26日(金)～3月25日(日)



住井すゑのライフワーク『橋のない川』(新潮社)は、明治から大正時代にかけての奈良盆地の被差別部落を背景に、「人間平等」と「命の尊厳」をテーマにした全7部にわたる大作です。

物語は、作者自身が子どもの頃に見聞きした、天覧による陸軍大演習や大逆事件などへの疑問をちりばめながら、差別する側の人間としての醜さや理不尽さ、差別する側と、差別される側に「橋」がかかっていないことへの無念さ、そして「橋」をかけるために立ち上がる人々の姿を、主人公の畑中誠太郎や孝二の成長に託して描いています。



この小説「橋のない川」を再映画化するにあたって、東陽一監督は、その意義を次のように述べています(「部落解放」341号)

「この小説に貫通している人間の気持ち、つまり、自然に対する感覚も、友だちを大事にする感覚も、日本人の精神風景の原型だと僕は思っています。しかも、その人たちが被差別部落だったために、自分の精神を外側から圧迫されて、中で燃焼するわけです。その純粋な精神がいま希薄になっているとしたら、いまの時点で、もう一回それを見直しておかないと、やばいんじゃないか。」

また、差別に自分がどう向き合うか問うことなく、「部落の人たちのかわいそうな生活を見て、さめざめと同情して泣く。そして帰り道は、ああ、私は部落に生まれなくてよかったと思いながら、おいしいステーキを食べに行く、そういう精神構造…。」

企画展「橋のない川」の世界は、東監督によって映画化されたスチール写真を基にして、その写真の場面をシナリオや、小説「橋のない川」を使って説明し、誠太郎と孝二の姿に焦点を当ててパネル化(B2判 全48枚)しました。

子どもの心を深く傷つける差別、その痛みの直接的な怒りの行動、子どもの気持ちを理解しながらも、生き方を通して教えを諭す母と祖母。その一言一言が誠太郎と孝二の心に染みわたり、それをバネにして大きく成長していきます。これは、今も昔も変わらない家族の絆、時代を超えた「日本人の精神風景の原型」なのでしょう。人権平和資料館での「橋のない川」の企画展示は2回目となりますが、「差別はもうなくなった」「差別が見えにくくなった」と言われますが、差別は自分の外側にある出来事ではなく、今日でも、私たちの日常生活の中で起こるものであり、それと自分がどう向き合うかが、いま問われているように思います。この企画展を通して、人の尊厳と自己の生き方を見つめ直す一助になることを願っています。

福山市人権平和資料館企画展関連行事

入場無料

映画「橋のない川」

*上映時間 139分

- 日時 2018年(平成30年)3月4日(日)
1回目:9時30分~ 2回目:13時30分~
- 場所 福山市人権平和資料館 2階研修室



人間の尊厳を掲げて敢然と差別に抗して立ち上がっていく人々の姿を描いた「橋のない川」。この住井すゑの原作を映画化したものです。明治・大正の奈良の農村にある被差別部落、小森。そこに生まれた主人公の兄弟、誠太郎と孝二の成長を通して、真の人間の豊かさとは何かを問いながら、全国水平社結成に至るまでの人々の闘いを描きます。

原作 住井 すゑ 監督 東 陽一
キャスト 大谷 直子, 中村 玉緒, 杉本 哲太, 超 泰勇, 渡部 篤郎, 藤田 哲也
中野 聡彦, 辰巳 琢郎, 高岡 早紀, 寺田 農, 中村嘉律雄, 高橋 悦史